

グローバルな視点を生かし自己の将来に目を向ける ESD 活動

石狩市立花川中学校

校長 佐藤 誠

担当者 小川 琢治

1. 活動の趣旨

本校の ESD・ユネスコスクールとしての活動は「教科」「総合的な学習」「生徒会活動」を柱として行っている。それらの活動を通して「言語能力」「情報活用能力」を高め、未知の状況に対応できる「問題発見・解決能力」や「想像力」「コミュニケーション能力」を育むねらいがある。特に「総合的な学習」では「職業や自己の将来に関する課題」をテーマとして学習に取り組んでいる。また、国内だけではなくグローバルな視野で物事を判断する生徒の育成を目指して JICA 北海道にご協力をいただき、講演会や校外学習を実施している。

2. 活動計画

| | | |
|-----|-------------------------|-------------|
| 5月 | 校内ユネスコスクールコーナー展示物リニューアル | 【全学年】 |
| 6月 | 校外学習 | 【1年生】※活動事例1 |
| 7月 | いじめに関わる意識調査 | 【全学年】 |
| | いじめ根絶スローガン作成 | 【全学年】 |
| 8月 | いじめ撲滅集会 | 【全学年】 |
| | 人権作文コンクール | 【3年生】 |
| 9月 | 命について考える学習 | 【1年生】※活動事例2 |
| 10月 | 英語暗唱発表 | 【全学年】 |
| 1月 | 書き損じハガキ回収（世界寺子屋運動参加） | 【全学年】※活動事例3 |
| 3月 | リングプル回収 | 【全学年】※活動事例4 |

3. 活動事例

(1) 校外学習

第1学年の校外学習ではSDGsの17の開発目標から生徒個人が興味・関心を持った内容を取り上げてどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えて学習に取り組んだ。

情報の探索やまとめレポートの作成及び発表に関してはICT機器を効果的に活用し、学びの質を高め、深い学びにつながるよう「学習の個性化」を図った。



JICA 北海道への訪問の様子

(2) 命について考える学習

「命の尊さ」をテーマとして講演会を行った。講師には外国で活動経験のある方を招き、日本とは違う環境で生活して感じたことや世界から見た日本についてなどを話していただいた。生徒は教育を当たり前前に受けることができない国がまだまだ存在することやきれいな水を飲むことが難しい地域があることなどを知り、自らの考えを広げていた。



講演会の様子

(3) 書き損じハガキ回収（世界寺子屋運動参加）

SDGsの達成に向けた取り組みのひとつとして、世界各地の貧困地域で学ぶ場を通して人材を育成しようという「世界寺小屋運動」に参加する形で書き損じハガキを回収した。書き損じハガキ、未使用の切手などは日本ユネスコ協会を通して、読み書きや計算など生活に役立つ知識を得る場を提供することに役立てられている。



書き損じハガキ回収の呼びかけ

(4) リングプル回収

リングプル回収で集めたリングプルは社会福祉協議会に送られ、その活動を通じて車椅子を必要とする高齢者や身体の不自由な方に車椅子の寄贈を行った。また、リングプルのアルミを再利用することで限られた資源を大切にすることを意識を高めた。

【ご協力いただいている場所】

図書館・市役所・公民館・コンビニエンスストア等



リングプル回収で地域周り

4. 成果と課題

2018年にユネスコスクールに認定されて以来、主に生徒会を中心とした様々な活動を行ってきた。今後も活動の意義やねらいがしっかりと継承され、活動が形骸化しないように配慮していくことが必要である。2021年度は新たに1年生の校外学習でSDGsについて学習をし、3年生は社会の授業の中で人権について学習をし、自らの意見をまとめ人権についての意識を高めた。コロナ下で行事や学習内容の精選が話題となっているが、限られた時間の中でも生徒がユネスコスクールの理念に基づいた活動ができるように学校として努力する必要がある。また、全国のユネスコスクール加盟校の実践資料はユネスコスクールのホームページ等で知ることができるのでそちらの活用も検討していきたい。